



## 七草粥

春の七草を入れて正月七日に食べる風習で、中国から伝来したものです。野菜不足の冬にふさわしい知恵ですネ。お正月の間、お酒に、ごちそう続きと疲れ気味の胃を休めるためにもひなびた味わいの青菜の粥は何よりのものといえましょう。現代では七草をそろえることは難しく、ホウレン草や水菜などもよいでしょう。

### 春の七草とは？



#### Q. ビタミンCは風邪に効く？

A. ビタミンCは免疫力を高める働きがあるため風邪やインフルエンザの予防と治療に有効という説があります。また、風邪の時はエネルギーを消耗するのでビタミンCが不足しがちになります。風邪の時はすすんでビタミンCを摂るようにしましょう。



#### Q. 「風邪は万病のもと」ってどういうこと？

A. 風邪やインフルエンザにかかると、身体の抵抗力が弱まります。そのため他の病原体、特に肺炎など呼吸器の病気のもととなる細菌の侵入を受けやすくなったりして、様々な病気を併発する恐れが出てくる、ということです。



**インフルエンザの予防接種は、当院で実施いたしております。医師にご相談下さい。**

#### 編集後記

年末年始は普段より映画を観る機会が多いと思いますが、いい作品に巡り会えましたか。この春、トム・フォレスト・ガンブ・ハンクス、レオナルド・タイタニック・ディカプリオ主演、スティーブン・ET・スピルバーグ監督作品の「キャッチ・ミー・イフ・ユー・キャン」が公開になるとのこと。レオ様が天才詐欺師、トム・ガンブがFBI捜査官に扮する実話を基にしたコメディ作品！この3人が顔を揃えるんじゃない訳には、... 乞うご期待!!

# せせらぎ通信 [第4号]

[2003年1月1日発行]

〒671-0221 姫路市別所町別所784  
☎(0792)52-5235 石川病院 広報委員会  
発行責任者 事務長 三枝孝弘

地域のために 思いやりと  
信頼性の高い 治療・看護を目指す

## ～新年を迎えて～



石川病院  
院長 石川誠

皆さん、明けましておめでとうございます。年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。  
平成14年を起点に病院運営、3カ年計画を策定し昨年は機能評価認定、新CTの導入計画を達成いたしました。  
平成15年は、三段跳びで言いますと、3カ年計画の2年目でステップの年であります。昨年よりは全ての面で品質を高めレベルアップする年であります。  
本年は、昨年より全ての面のレベルアップを目指し、5つの運営基本方針を策定しております。

### 1. 家庭的役割と地域医療活動のさらなる展開

医療サービスを通じて地域社会に役立つためには、職員一人ひとりが人間的に成長することです。その上で自分の立場、役割を自覚するとともにその責任を果たすことです。本年中には、訪問診療の検討実施、人間ドックの開設及び医療講座、健康講座の定期的開催等地域医療活動の充実を図ってまいります。

### 2. 患者様への的確な対応と迅速な処置

患者様の立場に立ってきめ細かい対応を心掛け、報告、連絡、相談及び確認の徹底と、日頃から、患者様第一で問題解決できるよう、能力、技能、技術を磨きます。

### 3. 管理技術、及びITの活用で徹底した業務効率化

専門技術と管理技術のレベルアップを図り、ITの徹底活用と科学的管理で各自の業務の効率化を具体的数値で目標設定します。

### 4. IJK(石川病院自主活動)のステップアップで積極的業務改善の推進

グループ活動を通じ、自主的に問題解決できる能力のアップ、及び具体的手法の習得。高目標の明確化、活動のテーマ、活動内容の充実、年間活動テーマ4件/Grの達成。

### 5. 自己啓発目標の設定及び取組活動支援体制整備

自己申告目標と具体的行動計画の策定、計画、行動、評価、反省等を確実に実行。支援体制の環境整備を図る。(研修参加費、図書費等の支援体制整備)

以上の5つの方針を、各部署、個人の具体的活動の目標に反映して頂き積極的に取り組んで頂くことをお願いしまして新年の挨拶とします。



## ～機能評価認定病院に～

この度、当院は病院機能評価機構から認定を受けました。今後も、機能評価認定病院としての自覚と、認定に相応しい機能の充実を図ることを心構えとし、一層の努力をしていきます。

### 『仁寿会 石川病院』

### 日本医療機能評価機構の認定基準を達成

〔複合病院 A・一般長期療養〕

#### 1. 受審の経緯

病院をはじめとする医療機関が提供する医療サービスは、医師、看護師等様々な専門職種の職員の技術的、組織的連携によって担われています。そして、医療の受け手である患者のニーズを踏まえつつ、質の高い医療を効率的に提供していくためには、組織体としての医療機関の機能の一層の充実・向上が図られる必要性があります。

#### 2. 審査迄の取組及び認定通知

医療環境が非常に厳しい状況のもとに、認定病院としての資格が問われる機能評価受審を決意したのは、昨年2月でした。

それから6ヶ月間、各部署単位の勉強会、資料作成、他施設の見学等を重ね、審査日8月28日を迎えました。

審査内容は、病院の理念や組織、地域ニーズの反映、診療の質の確保、看護の適切な提供患者様の満足と安心、病院運営管理等多岐にわたり、面接・部署訪問と審査員の細やかなチェックが行われました。

結果発表までは、不安と期待が交差しましたが、約3ヶ月後の11月21日付けにて、“認定”の通知を頂きました。

#### 3. 受審後の反省と今後の課題

審査を通して、石川病院が地域社会で果たすべき役割が明確となりました。今後は、認定病院としての自覚と「認定」に相応しい機能充実を図ることを目標として、全ての面でレベルアップに取り組んでいきます。

#### 「参考」

日本医療評価機構とは、日本の医療評価機関で、厚生労働省・日本医師会・日本病院会などの出資で設立された財団法人です

## 平成15年 スローガン発表

態度で示そう思いやり

心に持とう感謝の気持ち

チームワークで果たそう役割



石川病院名誉院長  
内田 發三

新年明けましておめでとうございます。皆様にはそれぞれお揃いで佳き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

この度、何かのご縁で仁寿会のメンバーの一人に加えていただき、昨年9月から勤務しております。私の専門は循環器外科、特に血管・リンパの外科ですが、これまで岡山大学病院で30余年、その後、赤穂中央病院で数年と、長年にわたり臨床と研究をライフワークとして担当してきました。幸いにして石川病院に兵庫脈管疾患研究所を開設していただきましたので、この分野の疾患の診断と治療の普及・発展に精力を注ぎたいと考えております。

「人は動脈とともに老いる（ウィリアム・オスター）」という名言のごとく、本邦でも高齢化社会の到来とともに動脈硬化性疾患が増えつつあり、その結果、脳梗塞、心筋梗塞、頸部や四肢の閉塞性動脈硬化症などが増加の一途を辿っております。これらの疾患に対応するため、赴任後、血管検査室を新設、その内容は充実してきております。すなわち動脈硬化の程度の判定や動脈閉塞の状況が瞬時に診断できる機器（フォルムPWV/ABI）と手指と足趾の末梢動脈の血流状況がすぐに測定できる機器（指尖容積脈波計）などの応用により閉塞性動脈硬化症はもとより閉塞性動脈疾患の診断が外来で可能となっており、今後ともこの分野の疾患の早期発見と予防に努めたいと考えております。

その上、昨年11月に導入された最新の16列マルチスライスCTの応用により、全身の大動・静脈と動・静脈の検査が外来で無侵襲的に施行でき、循環器疾患が総合的に診断できるようになりました。今後、関係各位の皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします次第です。

只今、日本は激変の中にあり病院もその例外ではありません。近い将来、良質で特徴のある病院しか生き残れないことが予測されます。日進月歩の社会にあって私どもは常に病院のレベルを向上させる必要があります。そのためには個人個人がまず自分のレベルを向上させるべく努力すれば自ずと病院の質の向上につながるものと確信いたします。そして職場においては、診療部、看護部、診療技術部、事務部が常に互いに協力し、一体となって業務に専念すればより信頼性の高い病院になりうるものと考えております。

お互いに目標に向かい懸命に努力し、頑張りたいものです。私もいささかなりとも病院の発展にお手伝いできればと考えており、今後ともご協力を重ねてお願いいたします。年頭の挨拶とします。

#### プロフィール

内田 發三（うちだ はつぞう）  
昭和12年 岡山県出身  
昭和38年 徳島大学医学部卒業  
昭和39年 岡山市川崎病院イン턴修了  
昭和43年 岡山大学大学院入学（第二外科）  
昭和45～47年 岡山大学大学院修了  
昭和48年 アメリカ合衆国ニューヨーク州立大学マインシイ病院心臓血管研究所留学  
昭和56年 岡山大学医学部付属病院助手  
昭和61年 岡山大学医学部付属病院講師  
昭和63年 岡山大学医学部付属病院総局局長  
平成12年 赤穂中央病院院長  
岡山大学医学部臨床教授  
医学博士  
日本外科学会認定医・指導医  
日本胸部外科学会認定医・指導医  
日本循環器学会専門医  
日本血管外科学会特別会員  
兵庫県全外科医会役員 など